

大雨、台風シーズンに向けて

万全の備えを

毎年のように大雨や台風による災害が各地で発生しています。いつ起こるか分からない災害に対し、日頃から備えておくことが大切です。梅雨を迎えるこれからの季節「自分の命は自分で守る」を念頭に、今一度、確認をお願いします。

《危機管理・防災課(☎66・1089)》



浸水するマカイ商店街(平成29年台風21号)

日頃からできること

ハザードマップで危険箇所の確認を

危険箇所をあらかじめ把握するために、ハザードマップを活用してください。

洪水ハザードマップでは、大雨や河川の氾濫などによる浸水の恐れが高い地域を、土砂災害ハザードマップでは、土石流などの恐れのある箇所をいづれも色分けして示しています。

自宅や職場をはじめ、通勤・通学路などが安全な箇所かどうか、あらかじめ確認しておきましょう。ハザードマップは、市ホームページ(左コードからアクセス可)に掲載しているほか、各公民館や危機管理・防災課などでも配布しています。

洪水ハザードマップを新たに追加

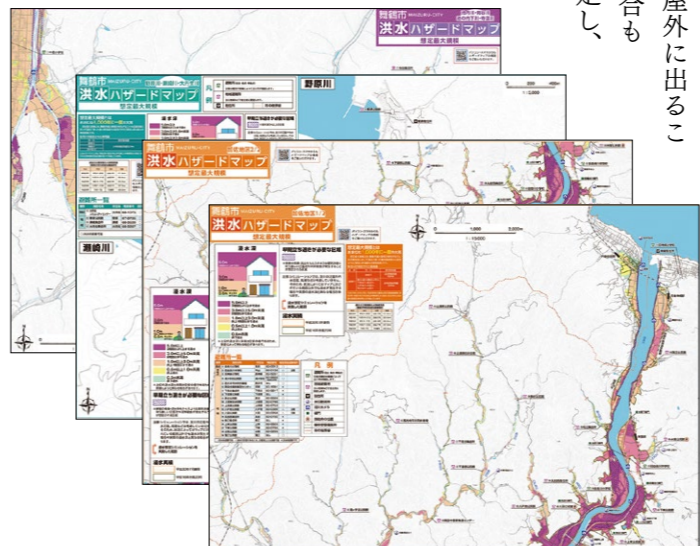
次の地区について、新たに洪水ハザードマップを作成しました。◇加佐地区(由良川

だけでなく支川の浸水区域を追加)◇野原・瀬崎・大丹生地区◇池内地区

避難計画を立てておく

◇避難方法・場所：最寄りの避難所の位置や移動時間を確認しておくことはもちろんですが、災害の規模などによっては、屋外に出ることが危険な場合もあることを想定し、

自宅の2階以上など高いところ、崖から離れた部屋で安全を確保することも考えてください
◇非常持出品
：定期的に確認をしてください



▲新たに作成した洪水ハザードマップ

【持出品の例】乾パン、缶詰などの非常食、懐中電灯、体温計、マスク、消毒液、常備薬・持病薬など

避難情報の入手方法

次の方法で避難情報などを入手できます。事前に確認しておきましょう。

- ◇市ホームページ◇まいづるメール配信サービス◇防災行政無線◇市公式ライン◇緊急速報メール◇テレビのdボタン◇舞鶴市総合モニタリング情報配信システム

レベル3で高齢者等避難レベル4までに全員避難

避難情報等(警戒レベル)は5段階あります。避難行動をとるのは「警戒レベル3」からですが、1や2の段階で情報にしっかりと注意を払い、次の段階に備えてください。市からは警戒レベル3以上を防災行政無線やまいづるメール配信サービス、ラジオ(FMまいづる)などでお知らせします。

◇警戒レベル3「高齢者等避難」：避難に時間のかかる高齢者などは避難を開始

◇警戒レベル4「避難指示」：ちゅうちょせず、危険な場所にいる人は全員避難を

◇警戒レベル5「緊急安全確保」：命の危険が迫っています。身を守る最善の方法をとってください

地域・家族のタイムラインを作りましょう

災害の恐れが高まった際、皆さんが自らの判断により、お互いに助け合いながら的確に行動するためには「いつ」「どこへ」「どのように」行動するかを時系列で整理した

タイムライン(避難行動計画)を、あらかじめ地域や家族で作っておくことが効果的です。タイムラインの作成方法や説明会の開催などについて、お気軽に危機管理・防災課へご相談ください。

モニタリングシステムの利用を

市内を流れる河川の水位情報や防災情報を「舞鶴市総合モニタリング情報配信システム」で公開しています。由良川や高野川、与保川など20河川を掲載。国・府・市が管理する河川の現在の水位の確認や、市内の避難情報の発令状況が地図上で視覚的に確認できるので、避難判断の参考にしてください。市ホームページで確認できます。下コードからアクセス可。また、さまざまな防災情報をプッシュ通知で受け取れる「防災アプリ」の導入に向けた取り組みを進めています。



▲自治会ごとの避難情報表示が可能に

避難情報等(警戒レベル)			
警戒レベル	状況	住民がとるべき行動	避難情報等
5	災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保!	緊急安全確保
~~~~~(警戒レベル4までに必ず避難! )~~~~~			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から 全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から 高齢者等は避難	高齢者等避難
2	気象状況悪化	自らの避難行動を 確認	大雨・洪水注意報
1	今後の気象状況悪化のおそれ	災害への心構えを 高める	早期注意情報

河川水位や雨の情報(警戒レベル相当)		
防災気象情報(警戒レベル相当)		
	浸水の情報(河川)	土砂災害の情報(雨)
5相当	氾濫発生情報	大雨特別警報(土砂災害)
4相当	氾濫危険情報	土砂災害警戒情報
3相当	氾濫警戒情報 洪水警報	大雨警報
2	氾濫注意情報	—
1	—	—



市から発表

市区町村長は、河川水位や雨の情報(警戒レベル相当)のほか、地域特性や災害実績なども踏まえ総合的に避難情報(警戒レベル)の発令判断をすることから、警戒レベルと警戒レベル相当が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致しません。

◇地域タイムラインの例。作成の相談はお気軽に市へ

スイッチ	想定される状況	行動	
		地域	要配慮者・住民
警戒レベル1 早期注意情報	・大雨の可能性	・気象情報をチェック	・気象情報をチェック ・避難所の再チェック
災害警戒レベル2 大雨注意報等	・大雨の1日前	・避難行動の要チェック ・要配慮者への注意喚起 ・河川水位や気象状況の状況確認開始	・避難行動をチェック
警戒レベル3	・災害の直前 ・基準値の超過	・スイッチ1と避難情報を確認 ・自治会役員や防災部役員へ連絡 ・地域避難所の開設 ・要配慮者の避難支援	・避難に時間を要する住民は避難開始 ・開設避難所の確認 ・危ないと思ったら避難行動開始 ・その他の危険な場所にいる住民は避難準備
災害レベル4 土砂災害警戒情報 河川水位到達情報	・災害の直前 ・小さな災害の発生	・スイッチ2と避難情報を確認 ・自治会役員や防災部役員へ連絡 ・避難の呼びかけ ・地域避難所が未開設の場合開設 ・住民の避難支援	・危険な場所から全員、避難行動開始 ・外に出られなければ屋内安全確保
災害レベル5	・大災害の発生 ・特別警報		・すぐさま避難、安全確保に最善を尽くす ・少しでも安全なところへ

